
医療経済学会

設立総会および第1回研究大会 プログラム

【日時】 2006年6月10日（土） 14:00~17:00

【場所】 慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール

【プログラム】

14:00 設立総会

14:20 設立記念シンポジウム「医療経済学の現状と未来」開始

14:20 基調講演 西村周三 医療経済学会会長（研究大会長）

（京都大学大学院経済学研究科教授）

「医療経済学：何がわかっていないか？」*

【講演概要】

経済学の発想は、時に経済学以外の研究者や実務家に次のように批評されることがある。「経済学者の発言は、一回聞く限りはとても新鮮で、いろいろな問題に対する経済学的発想の重要性を認識することが多いが、何度も聞いていると、全く同じパターンが発想しかできないことに気づき、なぜそれ以上深く問題に立ち入ることができないのかもどかしく思うことがある。しかも多くの場合、経済学者は、自分の示す処方箋が、問題に対する一面の真理しか衝いていないことに気づいていない。」

医療経済学はこれまでそれなりに発展を遂げてきたが、未だに多くの分野において、上記の部外者からの批判に耐えられない状態にあるように思う。しかしながら、こういった批判は、医療関係者に対しても向けられるべきである。医療従事者は、その多くが経済学的な発想を本格的に学んでいないし、そのため、個別の事例をできるだけ一般化して法則化することに慣れていない。このために、経済学者と医療従事者とのコミュニケーションが円滑に進まず、いずれの立場からの分析も隔靴搔痒の感が否めないことが多いのである。

そこでこの講演では、いくつかの例を取り上げて、上記の批判に応えるための今後の方向性について議論したい。

- (1) 終末期の医療の現実をめぐって
— 医師はどこまで終末期を的確に予測できるか
- (2) 喫煙行動と時間選好
- (3) 医師の行動仮説
- (4) 内部組織としての病院

西村周三（京都大学大学院経済学研究科教授）

- (専門分野) 保健・予防活動と疾病との長期的関連が医療費に及ぼす影響
薬剤経済学
代替医療の経済的分析
介護従事者の給与・賃金の動向
- (著作・研究) 「病院化社会の経済学」(1982, PHP研究所)
「医療の経済分析」(1987, 東洋経済新報社)
「医療と福祉の経済システム」(1997, 筑摩書房)
「保険と年金の経済学」(2000, 名古屋大学出版会)
「超高齢社会と向き合う」(共編著) (2003, 名古屋大学出版会)
- (経歴) 1969年 京都大学経済学部卒業
1971年 同 大学院経済学研究科修士課程修了
1972年 同 博士課程中退
1972年 京都大学経済研究所助手
1975年 横浜国立大学経済学部助教授
1981年 京都大学経済学部助教授
1986年 同 教授
1990年 京都大学大学院経済学研究科教授

15:00 パネルディスカッション「医療経済学の現状と未来」

<コーディネーター>

遠藤久夫（学習院大学経済学部教授）

- (専門分野) 医療経済、医療政策、
(著作・研究) 『講座 医療経済・政策学 第2巻』(共編著) 勁草書房 (2005年)
「医療制度のガバナンス」季刊社会保障研究 (2006年)
「急性期入院医療の包括評価に伴う医療資源の消費量変化に関する研究」(共著) 社会保険旬報 (2005年)
"Impact of Public Finances Used for Healthcare Schemes on Access to Healthcare Services and on Health Expenditures" The Japanese Journal of Social Security Policy (2005年)
「医療における市場性と非市場性」組織科学 (2005年)
「患者自己負担と医療アクセスの公平性」(共著) 季刊社会保障研究 (2003年)
「内科系医療技術の評価手法に関する研究」医療経済研究 (2001年)
- (経歴) 1980年 横浜国立大学経済学部卒業
1980年 保険会社入社
1988年 一橋大学大学院博士課程単位取得退学
1988年 シンクタンク入社
1995年 東海大学政治経済学部助教授
1997年 学習院大学経済学部 教授
2003年 厚生労働省独立行政法人評価委員
2005年 中央社会保険医療協議会委員(専門分野) 医療保険論、医療政策論、介護保険論、医療機関行動、患者行動

<パネラー>

池上直己（慶應義塾大学医学部教授）

- (専門分野) 医療政策、高齢者ケア、薬剤経済学
(著作・研究) 「日本の医療—統制とバランス感覚」(J.キャンベルと共著、中公新書、1996年)
「MDS2.1施設ケアアセスメントマニュアル」(監訳) (医学書院、1999)
「日本版MDS-HC2.0在宅ケアアセスメントマニュアル」(J.Morrisらと編著) (医学書院、1999)
「医療の経済評価」(監訳) (医学書院、1999)
「臨床のためのQOL評価ハンドブック」(福原俊一らと編著) (医学書院、2001)
「ベーシック医療問題新版」(日経文庫、2002年)
- (経歴) 1975年 慶應義塾大学医学部卒業
1975年 慶應義塾大学医学部訓練医(精神神経科)
1976年 慶應義塾大学助手(医学部病院管理学)
1982年 慶應義塾大学専任講師(医学部病院管理学)
1984年 Leeds大学Health Services Studies修士課程修了
1988年 慶應義塾大学助教授(医学部病院管理学)
1990年 慶應義塾大学(総合政策学部)および医学部兼任教授(病院管理学)
1990年~1991年 Pennsylvania大学Wharton校及び医学部訪問教授
1996年 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授

小椋正立（法政大学大学院エイジング総合研究所教授）

- (専門分野) 医療制度における経済的インセンティブの役割
(著作・研究) 『日米医療システムの比較研究(上)(下)』(編者) NIRA 研究報告書No. 930028
- (経歴) 1996年 東京大学法学部卒業
1996年 日本銀行(～1970年5月)
1970年 ペンシルバニア大学経済学部大学院入学
1974年 Ph.D. in economics ニューヨーク州立大学Albany校助教授
1980年 同校准教授
1982年 埼玉大学教養学部助教授(～1989年)
1989年 (社)日本経済研究センター主任研究員
1991年 同 首席研究員
1992年 法政大学経済学部教授
2001年 法政大学大学院エイジング総合研究所所長

小林廉毅（東京大学大学院医学系研究科教授）

（専門分野） 医療制度・政策研究、保健医療経済、ヘルスサービスリサーチ

（著作・研究） Kobayashi Y, Yano E. Structure, Process, Effectiveness and Efficiency of the Check and Review System in Japan's Health Insurance. Health Policy 1991;19:229-244.

Kobayashi Y, Takaki H. Geographic Distribution of Physicians in Japan. Lancet 1992;340:1391-1393.

Kobayashi Y, Reich MR. Health Care Financing for the Elderly in Japan. Social Science & Medicine 1993;37:343-353.

Asano N, Kobayashi Y, Kano K. Issues of interventions aimed at preventing prospective surplus of physicians in Japan. Medical Education 2001; 35: 488-494.

矢野栄二、小林廉毅、山岡和枝（編）. EBM 健康診断、第2版. 医学書院、2003.

（経歴）

1983年 東京大学医学部医学科卒業

1985年 帝京大学医学部助手

1989年 米国ハーバード大学公衆衛生大学院武見フェロー

1993年 帝京大学医学部助教授

1995年 筑波大学社会医学系教授

1998年 東京大学大学院医学系研究科教授(保健経済学)

2001年 東京大学大学院医学系研究科教授(公衆衛生学)

田中滋（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授）

（専門分野）ヘルスポリシー（医療政策と高齢者ケア政策）、ヘルスエコノミクス（医療経済学）

ヘルスケアビジネスおよび医業経営

（著作・研究）「国内総医療支出(TDHE)に関する研究—共通尺度による日米医療費国際比較—」医療経済研究6号[医療経済研究機構1999]

「米国ヘルスケア提供者の統合と分化」（共著）『医療と社会』12巻8号[医療科学研究所2002]

経済学から見た医療提供行動について」（編著）[日本医師会2002]

「市場経済とわが国の医療」『日本医師会雑誌』127巻6号[2002]

「介護報酬見直しの方向性」『医療白書2001年版』[日本医療企画2001]

「医療保険制度の課題と将来」『社会保障読本—週刊社会保障8月6日号』[法研2001]

『福祉が変われば経済が変わる—介護保険の正しい考え方—』（共著）

[東洋経済新報社2000]

（経歴）

1971年 慶應義塾大学商学部卒業

1975年 慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了

1977年 米国ノースウェスタン大学経営大学院修士課程修了

1977年 慶應義塾大学ビジネススクール助手

1980年 慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了

1981年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授

1993年 同 教授

16:00 休憩

16:10 パネルディスカッション

16:50 質疑応答

17:00 閉会

*＜参考文献＞

- Rice T(1998) The Economics of Health Reconsidered, Health Administration Press.
- Reinhardt U. (1989) Economics in Health Care: Saviors, or Elephants in a Porcelain Shop? American Economic Review, 79 337-342.
- 井伊雅子、大日康史(2002)『医療サービス需要の経済分析』日本経済新聞社
- Folland S, Godman AC, Stano M(2003) The Economics of Health and Health Care, Pearson, Prentice-Hall.
- 田近栄治、佐藤主光(2005)『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社
- 池上直己(2006)「病院としての終末期ケアへの対応」『病院』第65巻、第2号、pp.102-109.
- 今野広紀(2006)「生涯医療費における死亡前医療費の割合」『病院』
- Fox E et al. (1999) Evaluation of prognostic criteria for determining hospice eligibility in patients with advanced lung, heart, or liver diseases, JAMA 282(17), 1638-1645,
- 終末期医療に関する調査等検討会報告書—今後の終末期医療の在り方について—平成16年7月
- J.M. Bos, Maarten J. Postma, and Lieven Anneman Discounting Health Effects in Pharmacoeconomic Evaluations Current Controversies, Pharmacoeconomics 2005; 23 (7): 639-649
- George Messinis(2003) Habit Formation and the Theory of Addiciton JOURNAL OF ECONOMIC SURVEYS vol. 13, NO. 4